

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400054		
法人名	医療法人宝山会		
事業所名(ユニット名)	グループホームこがうら		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2688番地の5		
自己評価作成日	平成26年10月24日	評価結果市町村受理日	平成26年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は緑の多い閑静な住宅地にあり、認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対し、家庭的な環境の元で温泉による入浴や手作りの食事、外出の支援等日常生活を楽しみ生き生きと過ごせるよう 職員一同が利用者の有する能力に応じて支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の運営する病院に併設した施設であるが少し離れた所にありグループホームとして独立している。開設1年を経過した所であるが、管理者・職員の真摯な取り組みの元、地域の方々が気軽に立ち寄れる解放感ある雰囲気、利用者は常に自由に出入りしながら、地域の中で地域住民に見守られながら生活している。時間の過ぎるのを忘れてしまいそうな穏やかな生活を実現している事業所である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、利用者が地域で協同していけるように努力している。	事業所の理念は玄関ホールに掲げられ、管理者・職員は日々業務の中で、その理念を共有し実践につなげられるよう、声掛けをしながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しなどに積極的に参加し、住宅地の中なので常に地域の一員として近隣の方々と接している	町内会役員に運営推進会議に出席してもらったり、町の夏祭りに参加する等している。又、近隣の方には花を頂いたり、声をかけてもらったりと常に温かく見守ってもらっている。	近隣住民と積極的に関わりを持つ中で、事業所自体が、地域の中で町内会の一員として認めもらえるように、さらに地域に溶け込むべく一歩進めた取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でのつながりを大事にして、認知症への理解を頂けるように努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の様子や、現状を報告し、家族、地域の代表者、地域包括センターから意見を頂き、意見はサービスの向上に努めるようにしている	二ヶ月毎に開催し、事業所の現状を報告しながら意見等を頂いている。会議の結果については職員に回覧し、サービスの質の向上につなげている。又、出席者の方々に負担感なく参加して貰えるよう、時間帯の変更等今後について検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には行えていないが、運営推進会議に参加頂いたときなどに、相談をし信頼関係が築けるように努力している。	市町村担当者には研修等の情報を貰ったり、必要に応じて個別に意見を頂くなど信頼関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、身体拘束に関する知識を高めている、夜間のみ施錠し日中は自由に入出入り出来るように取り組んでいる。	日中は自由に入出入りできるように玄関は施錠していない。身体拘束に関する研修は、法人の研修や内部研修を実施し正しい理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修を通じて虐待が無いように、職員の夜間などにおけるストレスが溜まらないように職員の勤務状態にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後勉強会等を開催し、利用者の必要に応じて活用できるように努力し、関係機関との連携により活用できるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学をしてもらい、不安や問題点を聞き取りしている、十分説明をし同意を頂いた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の面会時の日常会話等から、意見要望を頂き、職員に報告して改善、要望等に反映させている。	利用者には日常の会話から、家族からは面会時に意見や要望を聞いている。又、メールや手紙で状況を報告する中で意見を頂く等、き運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を個々にも聞き入れ、運営に反映できるようにしている。	管理者は職員からの意見や提案を積極的に聞く機会を設けている。又、主任も中間的な位置づけで橋渡し役を担っており、より意見を出しやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年休やリフ休制度がよく活用されていて資格取得など個々のスキルアップの為に協力体制もあり、資格手当等も設けてあり向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々のレベルに合った外部研修に参加する機会を設け、研修には積極的に参加し、個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ない為、勉強会、研修会への参加などで、他職員との交流が出来るよう努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の困っている事、要望などを本人や家族から聞き、本人の安心を考えた関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを受けるまでの経緯や困っている事、家族にも安心していただけるような信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な情報収集を行い、サービス導入時には、本人や家族が必要と思われるサービスを提案し支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人が過ごしやすいよう心がけ、共に生活をしていると思って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の思いを大切し、共に本人を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた場所や馴染みの人、本人の希望する所へ出かけられるよう支援を行っている。	同町内から入所した利用者が日に何度となく無人となった自宅を訪れるのを職員や地域住民が見守ったり、又、墓参りや外泊など家族の協力を得て実施する等、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の感情の変化を把握し、利用者同士が関わりあいをを持って楽しく過ごせるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方はいませんが、必要に応じ支援できるように努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人や家族から聞き取った生活歴や思いや希望の把握に努め可能な限り沿えるように努める。	利用者一人ひとりの生活歴等を十分に把握した上で、本人・家族から思いや暮らし方の希望を聞き取り、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から個々の歴史等情報収集をして、職員全員で共有 把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況の把握に努め残存機能を活用しながら、心身状態、有する能力の変化に注意し、個々にあった過ごし方をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員それぞれの意見を反映させて、利用者本位の暮らしが出来るように現状に即した介護計画の作成、モニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族から要望を聞き、職員や関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別記録の記入を行い、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じる利用者のニーズに対応し、柔軟に臨機応変なサービスや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連施設で訪問がある場合など参加させてもらい、地区の子供会の催しに参加させてもらったり、地域の散髪屋さんに来てくれたり地域に参加出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当病院で受診して主治医も当病院でお願いしているが、それ以外の以前からのかかりつけ医や希望の医療機関も職員の付き添いのもと受診を支援している。	かかりつけ医については、利用者及び家族等の希望を尊重しており、職員が付き添って受診している。主には母体法人の医療機関の協力を得て適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一の間隔で看護師の訪問があり、心身の状態や相談事、気付いたことの助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携しているので、利用者や家族は安心して入院や退院を任せられる、病院関係者との情報交換や相談にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方向性を本人、家族と話し合いを十分に進めて作成出来るように、今後の方針として取り組む予定です。	開設して間もない事もあり、重度化した場合や終末期の看取りについて話し合う段階には至っていないが、現時点では法人の医療機関の看護総師長の判断で入院を勧めることになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、訓練等は行えてはいるが、急変に対するマニュアルを設定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の火災訓練を行い利用者も参加して避難方法や経路を確認している、災害時の備蓄等も備えるように努めています。	消防署立ち合いの上で年二回利用者と共に火災訓練を実施し、避難方法等を確認しており、反省点等を話し合い、より万全の態勢がとれるように努めている。又、法人の医療機関には通報により支援が得られる体制がとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した対応や言葉使いに、注意した声掛けをするように努めている、プライバシーを損ねることのない対応をこころがけている。	職員は利用者を尊重しており、言葉遣いや対応などからもプライバシーを損ねる言動は見られない。また、入浴等の支援は同性の職員による介護を基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを話せる雰囲気作りをし、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先で出来るだけ一人一人のペースや個性に合わせて、日々の生活の中でその人らしく暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みでその日の身だしなみを決めていきます、外出時には季節に合わせた身だしなみを出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握したメニューを作り、下準備やテーブル拭き、食後の片づけなどのお手伝いをしている。	利用者の嗜好調査を行い、好みを把握した上でメニューを作っている。野菜の下ごしらえや味付けなど可能な部分で参加してもらっている。又、たこ焼きや月見団子・干し柿などを作ったり、食卓に花を飾ったりと一緒に食事を楽しむ機会をもっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立で、個人の食事量や水分量を把握して不足しないように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛けをし、職員が状態に応じて口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し出来るだけ トイレでの排泄が出来るよう声掛け誘導をしている。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンをそれぞれに把握し、さりげなく介助する等排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをし、食事面(ヨーグルトや食物繊維の多い食品)水分補給にも努めている、体調に合わせた軽い運動、慢性便秘の方は処方された便秘薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴ですが温泉を一人ひとり入れ替えて気持ちよくゆったりと入っている、曜日は決まっていますが体調に応じ時間も曜日も個人に合わせています。	温泉を楽しめるよう、一人ひとり湯を入れ替える等ゆったりと入浴できるように配慮している。基本の曜日は決めているが体調や個々の希望や状態に合わせて柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じ日中は自由に居室やホールで過ごして頂き、夜間は他の入居に迷惑のかからない限りホールでテレビを見たり職員を交えて雑談をしたり、入眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の薬について、ほぼ理解している、一人ひとりの使用目的と服薬後の変化などに気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力に応じてそれぞれの役割を担って頂き、利用者の楽しみや張り合いを出せるように支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望に沿って庭に出たり、散歩や買い物をしています、常時玄関前にイスを出し日向ぼっこをしながら、地域の方からの声掛けなどしてもらっています。	利用者の希望を最優先に、散歩や近隣への買い物に出かけている。常に玄関先に出て過ごす利用者もおられ、少し先まで出かける事もあり、地域の方々が声掛けや見守りなど協力してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、自分で所持し、買い物支払い時には支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で携帯電話を所持し職員に尋ねながら掛けたり、必要のある場合は事務所の電話を使用している、今年は年賀状を出せるように支援してみます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち、安全に過ごせるようにし、採光や外気の取り入れ、季節が感じられる飾り付けに努めています。	天井部分に採光を取り入れたホールにソファが置かれ、居心地の良い生活空間であり、職員が調理しているキッチンが直ぐ近くにあり、美味しそうな匂いや音がして、さらに生活感が感じられ落ち着ける雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のソファは自由に座れるようにし、位置も置く場所も変えたり、食卓の席は楽しく落ち着いて召しあがれるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談して利用者の好みの品物、使い慣れた物を置き、本人が居心地良く過ごせるように支援している。	居室には家族の協力を得て使い慣れた馴染みの時計や椅子、タンスなどを置いて本人が居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人ひとりの出来ることを理解して、その人の力に合わせた行動が出来るように支援している。		